

辺川

合併20周年記念特集号

川辺町も成人に

ともに育ったぼくらもはたち

町の発展に役立ちたい

下飯田／山 田 義 人

深緑の水をたたえ、ゆっくりと

流れる飛騨川。町の南北を流れる

この川には、皇居から移された白

鳥が浮かび、そして音もたてずに

ボートが川面を走る。

人口一万人ばかりの小さな町。

別にとりたてていうほどの観光名

所があるわけでもない。けれど私

は、この飛騨の流れが好きだ。そ

してこの町が好きだ。

「ふるさと」という言葉を、深

く考えたことはない。「ふる

さとは遠きにありと思うもの、そ

して悲しくうたうもの」なるほ

ど、故郷を遠く離れ、はじめて故

郷というもののよさが、わかるも

のなのだろう。私はそういう経

験はないけれど、何思うことなく

安らげるこの町がいい。

川辺町と私は、生まれてこの

かた、同じ歩みをしているわけだ

人生において「はたち」は、ゴー

ルではなく、新しいスタートであ

る。本当の社会の真ん中に飛び込

んで行くのだ。

川辺町においても、二十年とい

う年月は長いようだが、今後の發

展を考えた場合、ひとつ上の土台に

すぎないわけで、川辺町は、これ

から伸びて行くのだ。私は「ふる

さと」としての我が町「川辺」を

大切にしつつ、町の發展に少しで

も役立ちたいと思つている。

そう言われるかも知れないが、しかし、なぜか素直に受けとめることができない。ある団体で、ひとつの行事を計画する。みんなで実現させようと努力する。しかし、条例などに照らし合わせてみると、少々ひつかかるところがある。「まずいな」とこのひと言で黙つて引き下がつてしまふようなことはなかつたか。これからは、これではいけないと思う。よいことならば、今回はできなくてでもこの次のためにと、わずかのすきまでもいいから、入囗を開けておこうとしなくては。川辺町の發展を願うならば、次に私が思うに、いまひとつ川

辺町民の團結が足りないような気がする。陰で「こうしてほしい、ああしてほしい」と言う人は多いが、手をつけないで申し出ようといふ氣力が見受けられない。いろいろ気になることばかり述べてしまつたが、川辺町の環境、気候など考えてみると、本当に住みやすく、いい所だと思う。もつともつと住みやすい町にしていくのは、私たち自身である。

目を外に向け、広い目で、広い心で川辺町を見つめ、川辺町民であるという自覺を持つて、自分自身を高めていく努力をしたいものである。

スポーツ活動の振興を

下川辺／日 下 部 礼 子

今後の川辺町は、「明るく住みよい町づくり」を手がけていくほしいと思います。

それを進めるためにはどうしたらよいか私なりに考えてみました。週休二日制が常識化しつつある現在において、働く人々の余暇の有効利用を考えると、スポーツ

脱出できないとか、井の中のかわらずとか、昔から言われてきたが川辺町政及び町民一人ひとりにもえてみたことが、今まで一度でもあつただろうか。

「いや、そのようなことはない。今ここで、何の資料もなく、ない知識を絞つて私の雑感を述べてみたいと思う。

一般に日本人は、島国根性から

最近、町内でもスポーツ活動が盛んになつてきました。その大きな原因として、ナイター施設の開放、体育館の一般開放などがあげられます。スポーツ教室なども開設され「スポーツに参加しよう」というふんいきも盛り上がりつつあります。

町民一人ひとりの健康を考えるものは他にないと思います。スポーツによつて養われた強いからだ、そこに宿る強い心こそ、家庭など、着実に進めているではない

明るく、町を明るくする原動力になると思うのです。

広い心で川辺を見つめよう

下麻生／井 戸 里 子

この世に生をえて二十年。川辺

町に生まれ、川辺町と共に育つて

きた私。しかし、町政について考

えてみたことが、今まで一度で

もあつただろうか。

川辺小学校、漕艇場、ごみ収集、川辺大橋、中学校校庭の一般開放など、着実に進めているではない

か」

「いや、そのようなことはない。

今ここで、何の資料もなく、ない知識を絞つて私の雑感を述べてみたいと思う。

一般に日本人は、島国根性から

試練に耐えて前進を



川辺町長 有九十九

飛騨川を中心にはさみ、地形的にも経済的に最も自然な形として、旧川邊町を中心に昭和三十九年に三和村鹿塙区、昭和三十一年四月に上米田村と新設合併、翌三十一年十月に下麻生町下麻生区を吸収合併して、新生「川辺町」が誕生しました。

今ここに、二十周年の記念すべき日を迎え、また多年宿願の上水道の通水式ができますことを、までもって皆さんと共に喜び申し上げます。

昭和三十四年九月の大被害をもたらした伊勢湾台風はじめ第二室戸台風、古老も初めてとう昭和四十三年の八・一七災害など苦難の時もありましたが、皆様方のたゆまざる御努力により、それらを克服してまいりました。新町が発足して以来、町長さんも故松岡品三郎氏、故佐藤円次郎氏、田原太義氏と受け継がれてま

いりましたが、歴代の町長さんの並々ならぬご尽力により、道路、橋梁の新設など各種の建設事業の推進、小学校、体育館の建築など教育施設の充実、青少年の健全育成、工場立地による産業の振興、農業基盤の整備など数々の業績を残され、また、飛騨川のほとりにありながら水に悩んでいた本町が長年宿願の上水道の通水をみるとができます。

今、これらの大事業をみる時、員各位に対して、改めて深く敬意を表すると共に、町民の皆さんのお指導、御支援に心から感謝申上げます。

合併以来の歴代の町長、町議会議員各位に対して、改めて深く敬意を表すると共に、町民の皆さんのお指導、御支援に心から感謝申上げます。

高度成長時代から安定成長期に入った今日、川辺町は「成人」を迎えたわけですが、今後ますます結束を深め、一人ひとりが手を取り合って、どんな試練にも耐えて明日に向かって前進しなければならないと思います。

今まで先輩各位が残された幾多の業績、伝統をしつかりと受け継いで、「明るく豊かな住みよい町」を目指し、今後の川辺町の発展のためにがんばろうではありませんか。

本町は、中部経済圏の中にある、経済的にも地形的にも非常に恵まれた地理環境にあります。これら的好条件を生かし、この

合併二十周年並びに上水道通水記念を契機として、二十年間に培われた基盤をもとに、自然に恵まれた

た、美しい郷土の人づくり、町づくり、社会福祉の向上にまいしんしていく決意であります。

町の花、さつきに決まる



町の花に決まったさつき

川辺町合併二十周年に伴い、このほど町のシンボルとなる花をみなさんから募集し、選定会で審査しました。

その結果①全町に普及し、愛育されている②おう盛な生命力は町の発展につながるーなどの理由で「さつき」に決定されました。

さつきは、関東以西から九州屋久島までの間に分布していると言えています。

さつきは、菊のようない生の草花と違い、花のないときは木を楽しみ、また「秋月」として、枝ぶりや緑を楽しむこと

さつきは陰歴の五月ごろから開花し「皐月」と書き、歳時記では夏の季語として使われています。我が国特有の名花として万葉の時代から親しまれ、歌わ

えられ、身近なものとなつてからは培養も広まつてきました。

格付けを競う

江戸末期から明治初年にかけて特に栽培が盛んになり、一般家庭

町内では、さつきの同好会が三グループあり、会員数も六十人余りを数え、一般愛好者を含めると数百人に及ぶものと思われます。

町にも多数の愛好者

最近のめまぐるしい世相の中につつて、心にやすらぎを求める自然を愛する同好者が増えています。

このほど「町の花」にさつきが制定されたことを契機に、この花のようにおう盛な生命力を持つて、みんなが力を合わせて明るい町づくりに励みたいものです。そして自然に恵まれた私たちの川辺町を一層すばらしい町に育てていきましょう。

時代からは鹿沼土を使

た、美しい郷土の人づくり、町づくり、社会福祉の向上にまいしん御支援の程、心からお願ひ申し上げます。

町民皆さんの絶大なる御指導、御支援の程、心からお願ひ申し上げます。



一川辺町・いまむかし

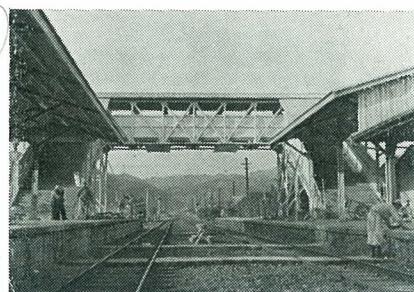
9月	下麻生公民館竣工
12月	町営住宅飛水団地竣工
3月	尾賀谷、柿の木林道竣工
6月	中部中学校自転車置場一棟
8月	新築
8月	議会議長に若井重三氏就任
12月	町営住宅飛水団地竣工
3月	下麻生を吸収合併し、現在の川辺町が誕生
6月	町長松岡品三郎、助役佐伯勝治、収入役栗山美雄、議會議長渡辺諫司の各氏

昭和31年

高度成長期から安定成長期へと、激動の時代を生き抜いてきた川辺町も、晴れて成人の年を迎えるました。幾多の試練を乗り越え、喜びや悲しみを分かち合った川辺町の歴史は、同時に私たちの歴史でもあります。満々と水をたたえて、ゆったりと流れる飛驒川も、そして川面にその雄姿を映す米田富士も、これらの時の流れを見つめ続けてきました。ここに、私たちと共に歩んできた川辺町の、二十年間の思い出を振り返ってみました。

昭和32年

1月	柿の木林道、飯谷林道竣工
4月	上米田小学校便所一棟新設
5月	衆議院議員総選挙
6月	議会議長に馬場克己氏就任



完成当時の中川辺駅跨線橋

8月	下麻生公民館竣工
6月	中部中学校自転車置場一棟
4月	第二保育園竣工
4月	町長選挙を執行、佐藤円次郎氏が当選
6月	参議院議員選挙
8月	郡体育大会を開催、川辺町

昭和34年

1月	一の谷林道竣工
2月	川辺警察部補派出所庁舎及び宿舎竣工
3月	役場増築工事
	中川辺駅跨線橋完成

昭和34年

昭和33年

12月 下麻生公民館竣工

9月	下麻生公民館竣工
8月	川辺用水改良事業竣工
4月	上米田小学校講堂改修
3月	約古、水無瀬、坂の洞、グミノ木林道災害復旧工事完了

昭和35年



町内にも大きな被害をもたらした伊勢湾台風

4月	上米田小学校給食倉庫及び渡り廊下改修
3月	中部中学校井戸新設、階上
2月	給水可能なタンクを設置
1月	寺洞林道竣工（継続）
	下麻生小学校運動器具庫を増設
4月	中部中学校特殊学級設立認可により校舎模様替え

昭和37年

昭和36年

10月	川辺小学校器具庫建設
11月	衆議院議員総選挙
12月	中部中学校屋内運動場竣工
	町営住宅天徳、飛水団地竣工
	開通
9月	下麻生公民館竣工
	災害救助法適用される
	伊勢湾台風による被害甚大
	全半壊家屋百七十戸、グミノ木、納古、水無瀬、坂の洞林道大災害
	議会議長に佐伯勝重氏就任
	町議会議員選挙執行、議長に佐伯勝重氏就任
	国道41号線下川辺～西柄井
	議会議長に佐伯勝重氏就任
	開通

昭和51年12月1日発行

(5) 合併20周年記念特集号

1月 天龍工業株式会社誘致
2月 郡体育大会開かれ、川辺町
3月 駅前広場新設工事着工
4月 結婚式場新設工事
5月 第二保育園移転工事
6月 町長選挙を執行、佐藤円次郎氏当選
7月 日後谷林道災害復旧竣工
8月 郡体育大会開かれ、川辺町
9月 三年連続総合優勝
準用河川雄鳥川決壊
町議会議員選挙執行、議長に渡辺諫司氏就任
10月 天龍工業株式会社誘致
11月 助役栗山美雄氏、収入役長
12月 谷川仙一氏就任
13月 下麻生小学校校歌制定
14月 衆議院議員総選挙

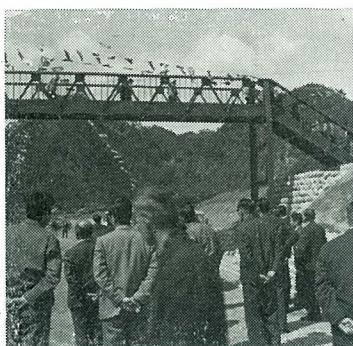
1月 飯谷林道災害復旧竣工（継）
2月 中部中学校校内電話増設
県道尾賀野橋、国道神明橋竣工
3月 中部中学校北便所移築、放送設備新設
4月 結婚式場新設工事
5月 第二保育園移転工事
6月 町長選挙を執行、佐藤円次郎氏当選
7月 駅前広場新設工事着工
8月 郡体育大会開かれ、川辺町
9月 三年連続総合優勝
準用河川雄鳥川決壊
町議会議員選挙執行、議長に渡辺諫司氏就任
10月 天龍工業株式会社誘致
11月 助役栗山美雄氏、収入役長
12月 谷川仙一氏就任
13月 下麻生小学校校歌制定
14月 衆議院議員総選挙

昭和38年

1月 川辺町民プール建設
下麻生小学校小使い室を改築
2月 寺洞林道竣工（継続）
神坂川砂防河川に指定
3月 林道納古橋竣工
株式会社丸大スプリング岐阜製作所誘致
4月 中部中学校校内電話増設
県道尾賀野橋、国道神明橋竣工
5月 中部中学校北便所移築、放送設備新設
6月 結婚式場新設工事
7月 駅前広場新設工事着工
8月 郡体育大会開かれ、川辺町
9月 三年連続総合優勝
準用河川雄鳥川決壊
町議会議員選挙執行、議長に渡辺諫司氏就任
10月 天龍工業株式会社誘致
11月 助役栗山美雄氏、収入役長
12月 谷川仙一氏就任
13月 下麻生小学校校歌制定
14月 衆議院議員総選挙

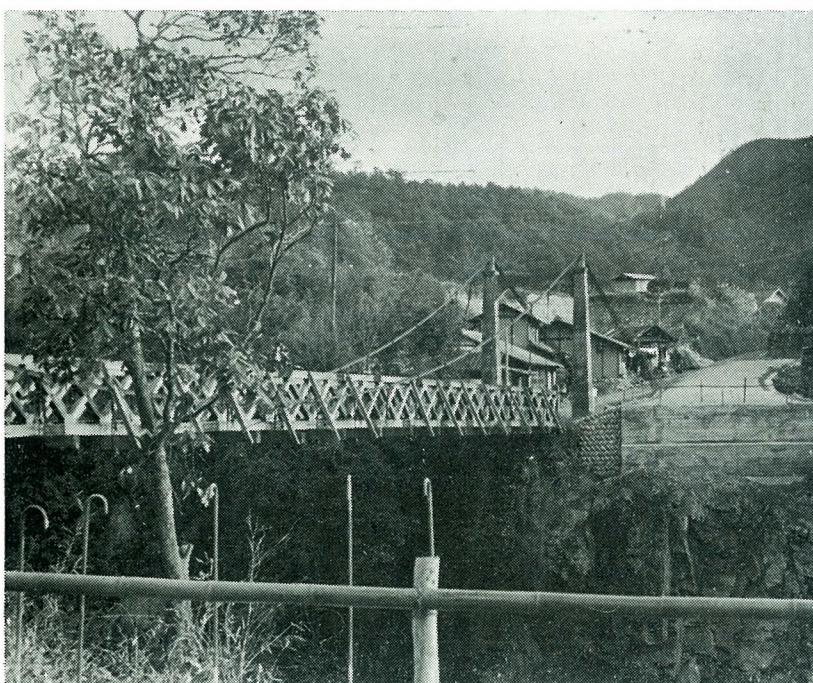
昭和39年

1月 下麻生小学校前国道41号線に歩道橋完成
2月 南陽寺、尾賀谷林道竣工
3月 準用河川雄鳥川災害工事竣
4月 下麻生歩道橋の渡り初めをする児童たち
5月 飛騨川橋橋梁整備工事着工
6月 町道軽舗装二千㍍完了



昭和41年

1月 飛騨川橋竣工
2月 一級河川雄鳥川災害関連事業開始
3月 飛騨川橋完成
4月 農村集団電話開通、千戸八戸加入
5月 川辺郵便局新庁舎完成
6月 中川辺駅に急行ひだ号が夏
7月 飛騨川橋橋梁整備工事着工
8月 町道軽舗装二千㍍完了



完成を間近に控えた飛騨川橋

昭和42年

1月 衆議院議員総選挙
2月 一級国道41号線竣工
3月 飛騨木曽川国定公園に指定
4月 町長選挙を執行、田原太義氏当選
5月 川辺小学校新校舎完成
6月 郡体育大会開かれ、川辺町
7月 第三位入賞
8月 町議会議員選挙執行、議長に加藤英治氏就任
9月 県知事選挙
10月 县道七宗～可児線福島久口橋完成
11月 町道軽舗装八千㍍完了
12月 町道軽舗装八千㍍完了



近代的校舎に生まれ変わった川辺小学校
下麻生住民プール完成
集中豪雨により、住家一戸全壊ほか公共施設三十一カ所計三千万円の損害
郡体育大会開かれ、川辺町
第三位入賞
町議会議員選挙執行、議長に加藤英治氏就任
9月 県知事選挙
10月 县道七宗～可児線福島久口橋完成
11月 町道軽舗装八千㍍完了
12月 町道軽舗装八千㍍完了

昭和43年

長江製陶操業開始

- 4月 第十九回県緑化大会を納古山で開催、遠藤豊氏が県知事表彰、西垣兼茂氏が国土緑化推進委員会加茂支部長表彰を受ける



- 10月 明治百年記念式典を行ふ
議會議長に遠藤稔氏就任
川辺町章決まる

大きな被害をもたらした八・一七豪雨

昭和44年

5月 郡青年協議会発足
可搬式動力ポンプ購入、第
四分団第二部、第一分団第
一部に引き渡し

- 2月 納食センター完成

- 2月 第一艇庫完成
助役長谷川仙一氏、収入役
桜井道夫氏就任
第一回全日本女子選手権競
漕大会を開催

- 2月 給食センター完成

- 9月 福島の井上敏明氏ミュンヘンオリンピックに出場
第二回町民運動会
第一回消防操法大会開催
第四分団第一部が優勝

- 8月 中部中ブール完成
福島の井上敏明氏ミュンヘンオリンピックに出場
町青年協議会発足
可搬式動力ポンプ購入、第
四分団第二部、第一分団第
一部に引き渡し

昭和45年

- 11月 第二回町民運動会
第一回消防操法大会開催
第四分団第一部が優勝
町道中川辺→西柄井一号線竣工

昭和46年

- 1月 可茂消防川辺出張所発足
参議院議員選挙
上米田小学校ブール完成
町議会議員選挙執行、議長
町議会議員選挙執行、議長
に有本九十九氏就任

- 4月 可茂消防川辺出張所発足
参議院議員選挙
上米田小学校ブール完成
町議会議員選挙執行、議長
町議会議員選挙執行、議長
に有本九十九氏就任

- 11月 木曽川右岸県営土地改良事
業工事開始

- 1月 中川辺派出所前国道41号線
に押ボタン式信号機完成
白鳥ひとつがい皇居よりお
こいれ

- 2月 上水道事業開始
川辺大橋建設始まる

電話自動化切替五分前
の緊張のひととき

昭和47年

- 3月 川辺局電話ダイヤル式に切
替え
5月 川辺大橋完成
西柄井禅原寺にチビッコ広
場第一号完成
スポーツ少年団誕生

- 9月 比久見団地二十戸建設開始
第二回町消防操法大会開催
第四分団第二部優勝

- 3月 川辺局電話ダイヤル式に切
替え
5月 川辺大橋完成
西柄井禅原寺にチビッコ広
場第一号完成
スポーツ少年団誕生

- 9月 比久見団地二十戸建設開始
第二回町消防操法大会開催
第四分団第二部優勝

昭和48年

- 1月 生後二十四ヶ月以内の乳幼
児と重成心身障害者の医療
費全額無料化
平野県知事らを迎へ第二十二
回地域懇談会を開催



"虹のかけ橋" 川辺大橋が下吉田一上川辺間に誕生

昭和51年12月1日発行

(7) 合併20周年記念特集号



異常渴水に給水車が出動

昭和49年	
1月	川辺町異常渴水、飲料水対策本部を設置
3月	下川辺丸大スプリンギング前国道41号線に押ボタン式信号機完成
4月	比久見団地完成
5月	公害バトロール車配置
6月	山楠地内に「中国人殉難者之碑」建立
7月	中部中学校校庭開放条例を制定
8月	町史編さん事業始まる 平野県知事ら迎え第六回老人福祉大会開催
9月	参議院議員選挙 中部中学校に夜間照明施設とクラブハウス完成
10月	農協会館で開かれた第六回老人福祉大会
11月	第三回町消防操法大会開催 第一回團第二部優勝
12月	県知事及び県会議員補欠選挙 比久見団地二十戸増設工事に着手

昭和50年	
1月	山楠公園事業認可なる
4月	川辺町総合計画基本構想を策定
6月	町議会議員選挙執行、議長に渡辺諫司氏就任
8月	青色申告会婦人部設立総会を開く
10月	第四回町民運動会 明治学級発足
11月	全町都市計画区域に指定
昭和51年	
1月	山楠公園事業認可なる
2月	町史編さん室主催で「綱場を語る会」を開く
3月	第二回川辺町オリエンテリング大会を完了
5月	第二回保育園増築工事
6月	商工会館完成
7月	交通少年団結成
8月	高校生親の会結成
9月	下麻生小学校、上米田小学校を閉鎖し、統合小学校をつくる「統合三校案」を可決
10月	台風17号の余波による被害甚大
11月	第五回町民運動会 第一回川辺町オリエンティング大会を開催
12月	第二回保育園増築工事が開始される



町内各小学校に交通少年団誕生

人々の苦難とともに

古代から 川辺の歩んだ道
代現まで

川辺町に人類が住み始めたのは、
従来は弥生時代（西暦二百年）とい
われていたが、発掘石器などか
ら、すでに三千年以前に、上米田
地域に住居があったと推測される
狩猟と採集の日々、やがて農耕
を知り、稻作経済へと移行してい
く古代人。このころになると、各
地に小グループの住居がみられる
ようになつてくる。

集団の中心人物、権力者の墳墓
である古墳は、現在でも八カ所現
存しており、最近では下吉田の山
見など）の統轄者の墳墓とも考え
られる。

太部氏は、川辺町に存在した最初
の豪族であった。その支配は、一
時川之部郷（中川辺）にまで及ん
でいたことであろう。

生部郷の住人生部氏、あるいは
川之部両郷とともに、今
ひとつ忘れてならないに駅家郷
がある。この地方に開かれた官道
飛驒街道の駅家として人馬が常設

され、伝馬駅としての役割を果たした集落である。それが、現在の下麻生であり、飛驒街道五駅のひとつであった。

武士の世代

中央政府は、時代の推移とともに、幾度かの戦乱に見舞われ、戦火を逃れた多くの武人が、川辺に定住するようになつていった。

米田城、下麻生城の城跡は、室町時代高師直の進攻、戦国時代飛騨一円を領地した三木一族の来襲と、その攻防も激しく、現在の比久見街道は、往時三木街道とも呼ばれて、その面影を残している。

また、後の稲葉山城主、二階堂山城守の支配もあつたが、織豊時代までは、美濃守護職土岐、斎藤両氏の領地となつていていた。

発展めざましい明治以降

町政の施行

当時の農民は、合戦ともなれば食糧の供出、あるいは人夫の強制徵発など、苦しい日々を余儀なくされていた。家はかやぶき、床にむしろを敷き、新田の開発と山林にまきを求めるのが日課であつた用水を心配し、肥料をあたため、病氣になればその回復を祈るとい

う、すべて天命のなすままの生活であった。苦難と非哀に満ちた、"ものの哀れ"が当時の人々の日常生活でもあった。

江戸時代になると、世代も安定し、それぞれの領主も定められていった。中川辺村などは旗本大嶋家の支配となり、比久見村などは名古屋藩、その他は幕領地となっていた。そして、これら十一カ村にはそれぞれ庄屋が置かれ、村を治め、田畠の検地と年貢高の石割も決められた。

旗本大嶋家は、現在の川辺小学校に堀をめぐらした城構えの屋敷をもち、明治維新までこの地方を治めていた。一方下川辺村には笠松代官所の出張所が置かれ、飛驒川流域と、武儀、郡上両郡の幕領地を統治していた。この出張所に三十多年の間勤めた役人、秋山太郎輔の墓は禅原寺に残っている。

当時の村人で職業を持つていた者はわずかで、多くの家は、出稼せいで生計を維持していた。一方農民は、天災の有無を問わず、年貢を納める義務があり、凶作の場合、地主宅への奉公によって年貢の代納をなしていた。現在では考えられない程の、苦しい生活を送つていたことであろう。

文化遺産

川辺町の文化財は数多く、先人との貴重な記録が今日に伝えられている。

建造物、絵画、彫刻などの有形物、祭礼、芸能などの無形文化財さらには数々の史跡など……。すべて先祖が残した文化遺産でありこれを後世に伝えるのが私たちの義務である。

幸い、川辺町の全歴史の解明とともに、資料館も計画中となつてゐる。

数々の伝統と古い歴史を持つ郷土川辺——、町民一人ひとりが、大切にこの町並みを見守り続けていきたい。

た。過去百七十年余も争わってきた「能古山論争」が、大審院（最高裁判所）で、やっと結審になつた和解の年であった。

郵便局の開設、農商青年学校、農業補習学校、小学校検査、産業組合、電信電話の開設、高山線の開通、山川橋竣工と、産業、交通の面での発展はめざましいものが、この年以後、文明の波は川辺に新たなことが証明され、これは幕領藩領ともいえることである。

幕府が事業を計画すると、かなりの賦課金が各村に割り当てられていくのが通例となっていた。維新の長州征伐の際、一村あたり百両余の軍用金が課せられているが現金収入のない村人にとっては過酷な金高であった。そのため一揆の誘發を招いてもいた。

當時の村人で職業を持つていた者はわずかで、多くの家は、出稼せいで生計を維持していた。一方農民は、天災の有無を問わず、年貢を納める義務があり、凶作の場合、地主宅への奉公によって年貢の代納をなしていた。現在では考えられない程の、苦しい生活を送つていたことであろう。

しかし、やがて戦争による苦難の道を歩かねばならない、昭和期の訪れがあつた。

川辺町の近代化の基礎は、ここに築かれていた。

上水道事業

認可から通水まで

「川辺町に、安心して使える水を豊富に」。——この願いのもとに上水道事業が始まって今年で五年。そして川辺町合併二十周年の年に、一部通水の日を迎えることができました。以下、上水道事業経営認可から現在までの、工事経過を追ってみました。

昭和47年

事着工（10月完了）

3月
町議会において「川辺町水道事業の設置等に関する条例」議決

4月
川辺町水道事業経営認可申請
同右認可

5月
町議会において水道特別委員会を設置

10月
配水場用地取得のため、関係地主との説明会

11月
上水道第一期土木工事着工（昭和48年4月完了）
川辺大橋に水管架設

昭和48年

3月
上水道第二期土木工事着工（4月完了）

7月
中川辺—西柄井線配水管敷設工事

12月
第三工区（上川辺）配水管敷設工事着工（昭和50年3月完了）
工事着工（8月完了）

昭和50年

1月～2月
町議会において給水条例制定

4月
水道加入者部落説明会

4月
第四工区（石神）配水管敷設工事着工（8月完了）

5月
第一工区（福島）配水管敷設工事着工（6月完了）

10月
第二工区（中川辺）配水管敷設工事着工（昭和51年2月完了）

11月
山楠配水池築造工事着工

10月
第二工区（中川辺）配水管敷設工事着工（昭和49年4月完了）

11月
山楠配水池築造工事着工

昭和49年

1月
第三工区（中川辺）配水管敷設工事着工（7月完了）

4月
第四工区（中川辺）配水管敷設工事着工（8月完了）

7月
高山本線（上川辺、下麻生）横断工事着工（6月完了）

4月
第三工区（中川辺）配水管敷設工事着工（11月完了）

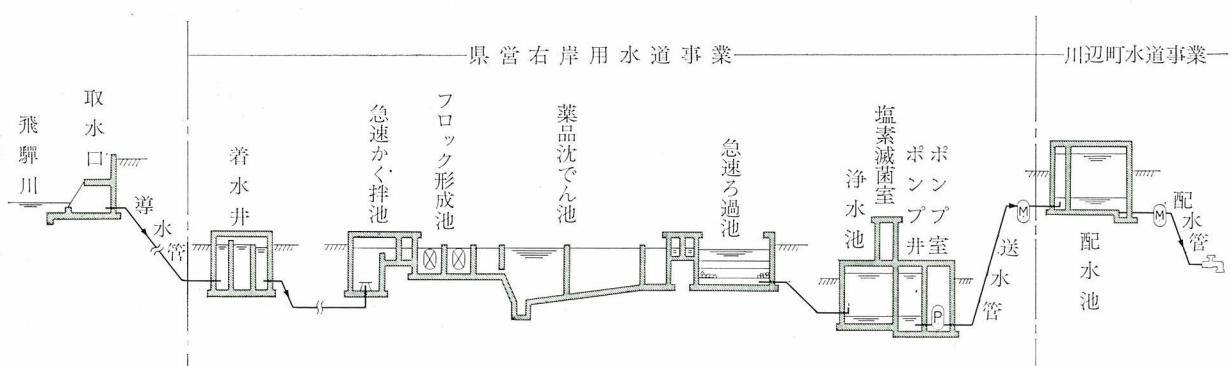
7月
第一工区（下川辺、西柄井）配水管敷設工事着工（11月完了）

6月
高山本線（下川辺、中川辺、石神）横断工事着工（7月完了）

7月
下川辺内森地区配水管敷設工事着工（7月完了）

11月
第二工区（上川辺、下麻生）配水管敷設工事着工（昭和50年3月完了）
着工（8月完了）

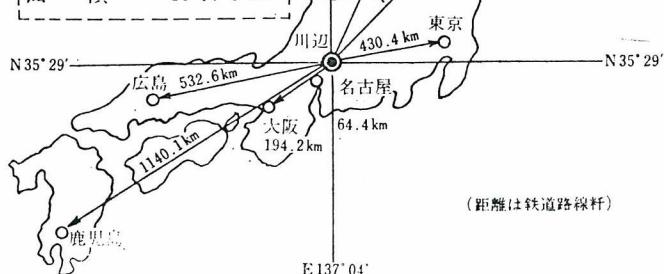
目で見る水道のしくみ



飛騨川の水を水源として、水資源開発公団で実施完了した木曽川総合用水事業の木曽川右岸幹線用水路（白川町）から取水し、その水は途中、図のような経路をたどって、安全できれいな水となって私たちの家庭に供給されます。

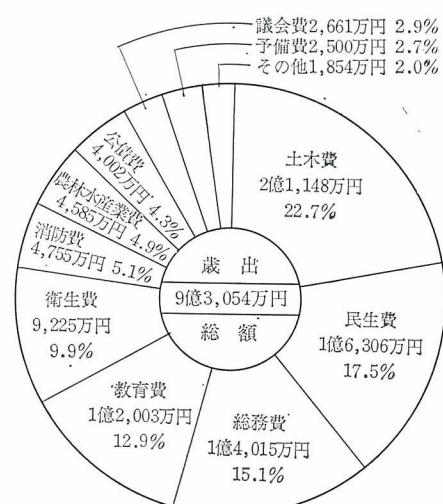
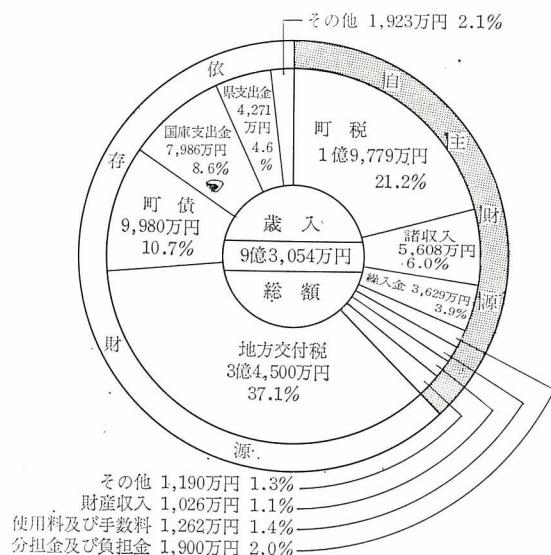
町勢

位 置	E 137° 04'
東 緯	137° 04'
北 緯	35° 29'
海 拔	
最 高	633 m
最 低	60 m
広 さ	
東 西	8.7 km
南 北	10.3 km
面 積	40.7 km ²



財政

昭和51年度一般会計当初予算

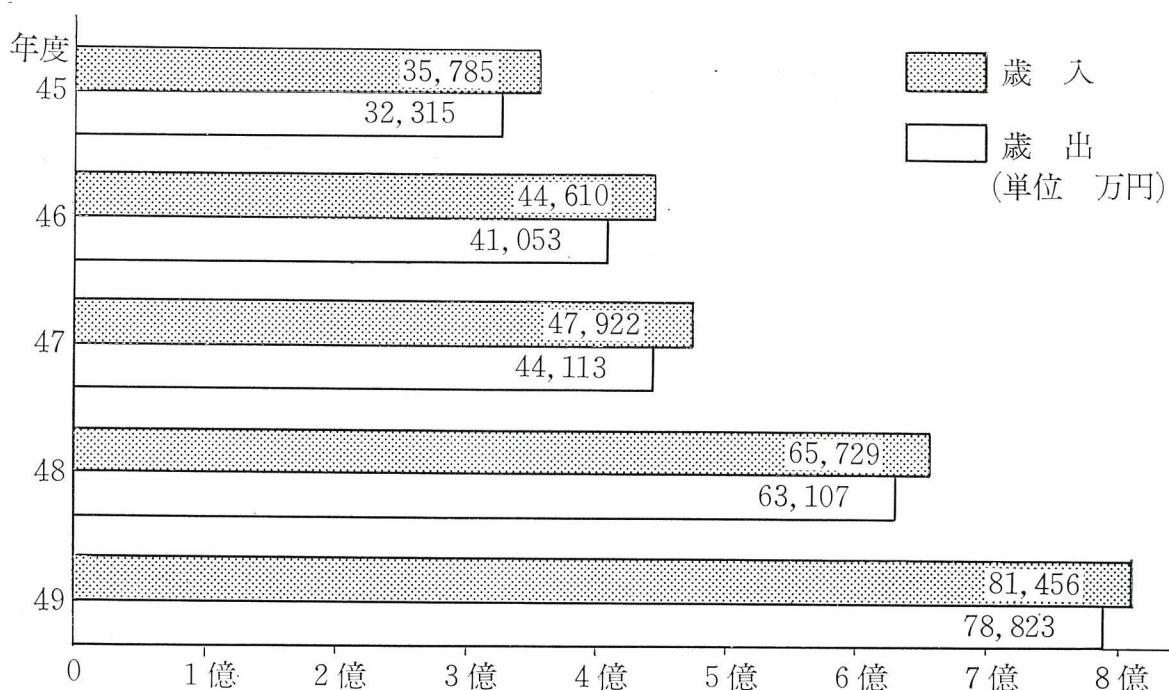


昭和51年度特別会計当初予算

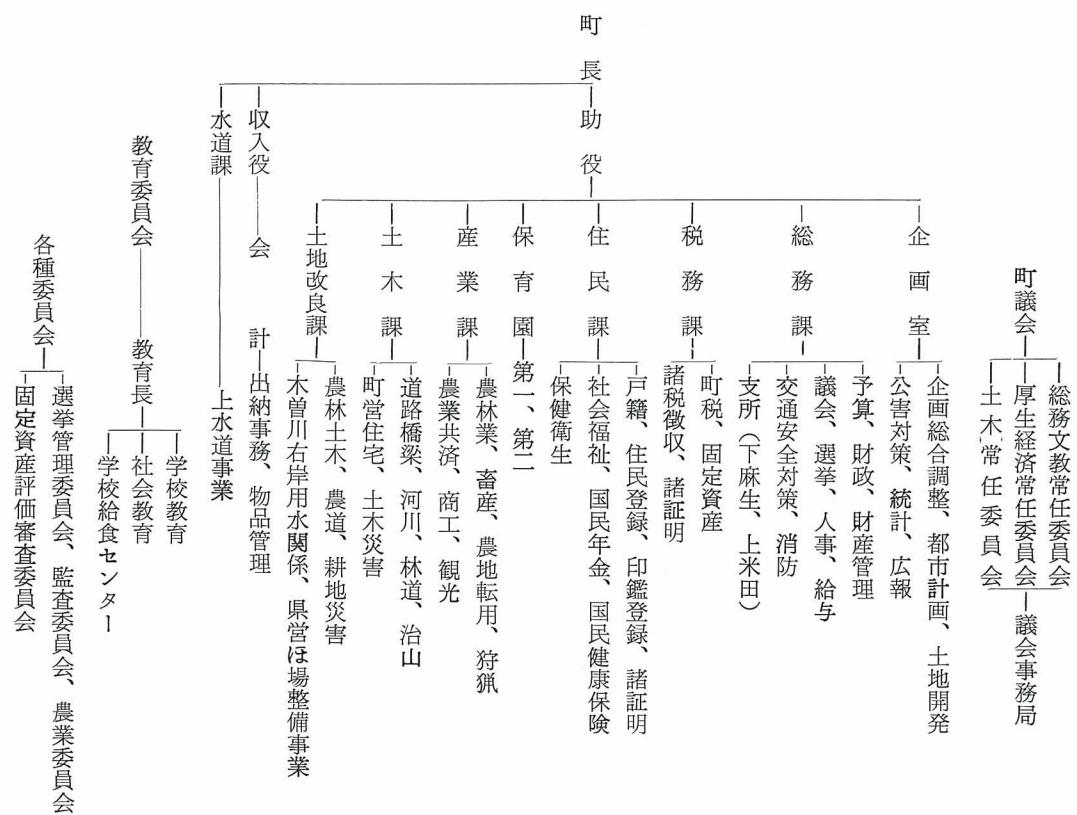
単位：千円

区分		本年度	前年度	比較	伸び率
国民健康保険		143,427	129,753	13,674	10.5%
農業共済		12,569	11,266	1,303	11.6
学校給食		41,655	38,754	2,901	7.5
上水道		364,797	279,697	85,100	30.4
計		562,448	459,470	102,978	22.4

一般会計決算額の推移



行政機構図



選挙

主要選挙の投票状況

選挙種別		執行年月日	有権者数	投票者数	投票率%
衆議院議員		47. 12. 10	6, 888	5, 967	86. 63
川辺町長		48. 5. 20	6, 772	4, 448	65. 68
参議院議員		49. 7. 7	6, 970	5, 510	79. 05
県知事・県会議員補欠		49. 9. 29	6, 971	4, 544	65. 18
県会議員		50. 4. 13	6, 924	5, 292	76. 43
町会議員		50. 8. 24	6, 965	6, 562	94. 21

資料=町選挙管理委員会

町議会議員一覧

議席	氏名	住所	生年月日	職業	党派
1	渡辺諫司	中川辺	明治42年11月20日	会社社長	無所属
2	栗山正一	々	大正12年5月29日	農業	々
3	平岡敏夫	石神	々 7年3月1日	理容業	々
4	佐伯春雄	下麻生	明治43年1月4日	会社役員	々
5	佐伯弘行	上川辺	大正10年7月6日	農業	々
6	横田良房	鹿塩	々 13年5月8日	会社員	々
7	遠藤稔	中川辺	々 13年7月8日	農業	々
8	井上定美	福島	々 9年9月21日	々	々
9	橋本幸夫	西柄井	々 13年7月2日	々	々
10	中西鉄郎	上川辺	明治43年7月1日	製材業	々
11	高井信孝	比久見	大正7年10月2日	木工業	々
12	牧田信夫	下麻生	々 8年8月1日	製菓業	々
13	日下部信夫	下川辺	々 15年5月12日	農業	々
14	佐伯泉	下吉田	昭和5年6月1日	会社社長	々
15	古田隆	下麻生	々 5年1月27日	タイル加工業	々
16	船戸進	中川辺	々 8年9月2日	国鉄職員	日本共産党

昭和51年11月1日現在

教員

各学校児童生徒及び教員数

昭和51年10月1日現在

学校名	児童・生徒数			学年別児童・生徒数						教員数	教員1人当たり児童・生徒数
	男	女	計	1	2	3	4	5	6		
中部中学校	243	236	479	160	155	164	—	—	—	25	19
川辺小学校	301	262	563	82	89	88	76	113	115	21	27
川辺小分校	56	56	112	36	25	33	18	—	—	5	22
下麻生小学校	39	57	96	13	19	16	15	14	19	9	11
上米田小学校	83	68	151	31	14	30	22	25	29	10	15
計	722	679	1,401	322	302	331	131	152	163	70	20

中学卒業生の進路状況

昭和50年度卒業生進路状況より

進学者	165人 (91.2%)	就職者	8人 4.4%	専門学校	8人 4.4%
-----	-----------------	-----	------------	------	------------

消防

団員数及び施設の状況

昭和51年11月10日現在

分団数	団員数	婦人防火 クラブ員	可搬動力 ポンプ	積載車	消防自動車	貯水槽 防火井戸
4	197	89	10	7	1	47

人口

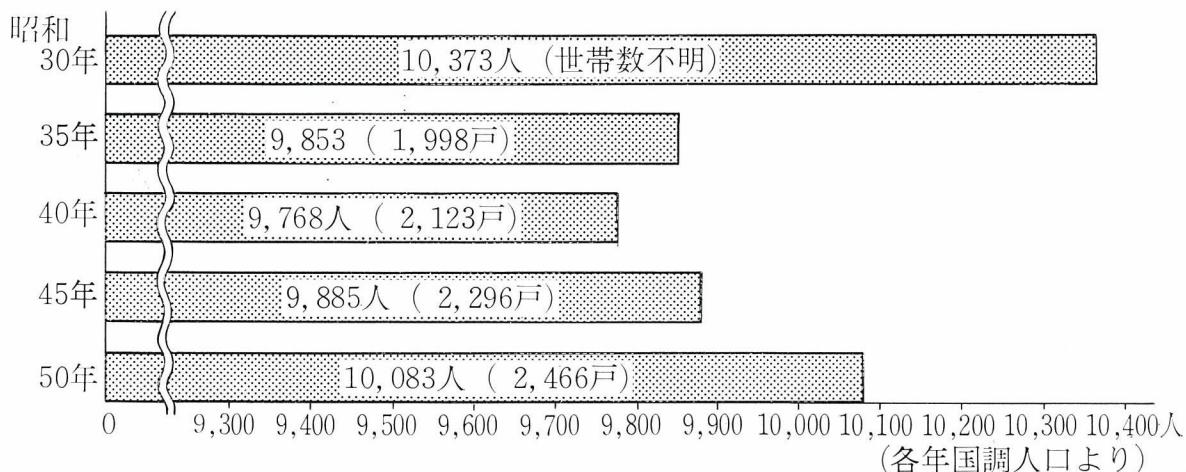
部落別世帯数及び人口

昭和50年国調人口より

部落名	世帯数	人口	部落名	世帯数	人口
上川辺	(+29) 300	(+32) 1,255	下飯田	(+3) 39	(-3) 179
石神	(+14) 170	(+28) 730	福島	(+12) 123	(-10) 477
中川辺	(+5) 640	(-147) 2,547	比久見	(+73) 269	(+229) 1,109
西柄井	(+44) 275	(+198) 1,144	下吉田	(+2) 95	(-26) 388
下川辺	(+12) 179	(+8) 744	下麻生	(-24) 271	(-50) 1,057
鹿塩	(±0) 105	(-61) 453	計	(+170) 2,466	(+198) 10,083

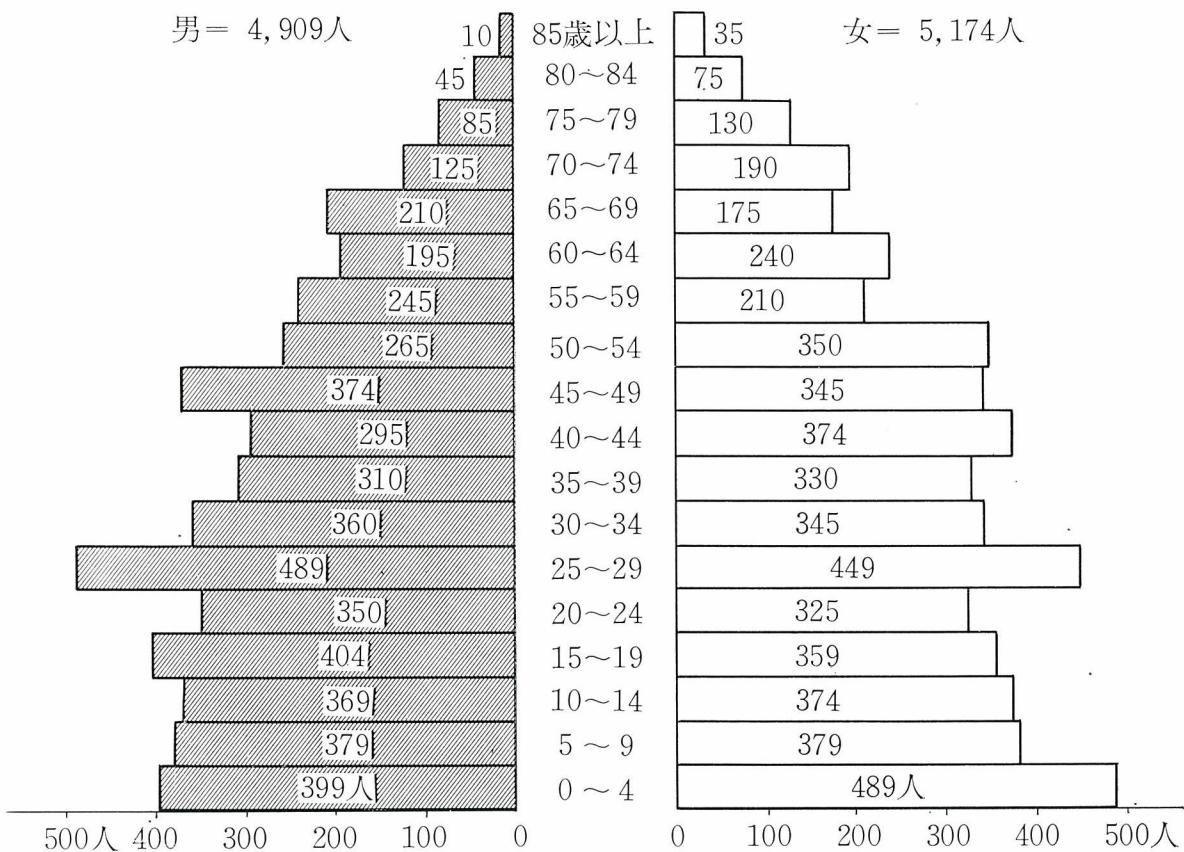
() 内は昭和45年国調との比較

人口の推移



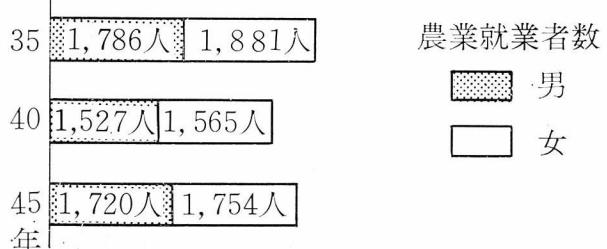
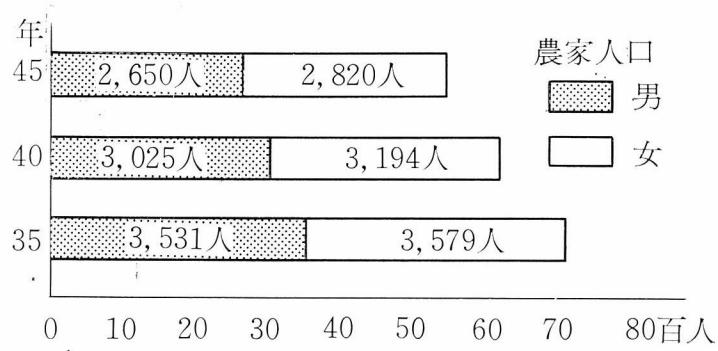
年齢階層別人口分布状況

昭和50年国調推計

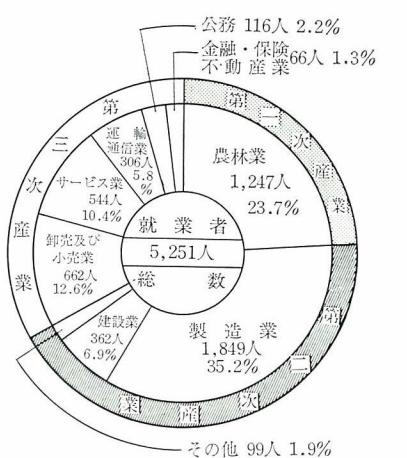


産業

農家人口及び農業就業者の推移



産業別就業人口



資料=昭和49年農林水産統計年報

昭和51年12月1日発行

(15) 合併20周年記念特集号

業種別商店数、従業員数、販売額

業種		商店数	従業員数	年間販売額
一般卸売業		5	15	18,455 万円
織物、衣服、身のまわり品		21	58	32,470
飲食料品小売業		67	140	64,071
飲食店		29	77	21,375
自動車、自転車		5	8	2,595
家具、建具、じゅう器		22	52	34,739
その他の小売業		36	105	97,912
計		185	455	271,617

資料=昭和49年度商業統計

業種別工場数、従業員数、出荷額等

業種		工場数	従業員数	出荷額等
食料品製造業		15	93	75,605 万円
織維工業		9	60	9,889
衣服、その他の織維製品製造業		1	x	x
木材、木製品加工製造業		22	x	x
窯業、土石製品製造業		15	390	208,116
金属製品製造業		13	x	x
機械器具製造業		8	x	x
その他の製造業		11	201	137,668
計		94	1,406	716,864

△は統計法第14条により秘扱いのもの

資料=昭和49年度工業統計

福祉・厚生

国民健康保険

加入世帯	被保険者	加入率
1,157戸	3,758人	35.9%

昭和51年10月1日現在

町営住宅

国民年金

受給者			被保険者	
	福祉	拠出		
老齢	652	268	強制	1,729
障害	66	8	任意	750
母子	1	14	計	2,479
寡婦		4		

昭和51年8月31日現在

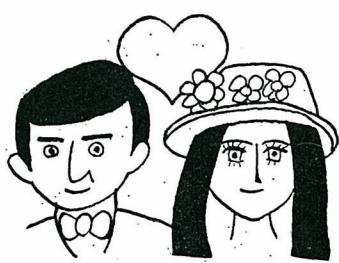
構造	住宅名	建設戸数
木造	飛水	26
	天徳	11
	見持	40
非木造	見持	7
	中川辺	10
	比久見	51
総戸数		145

資料=町土木課

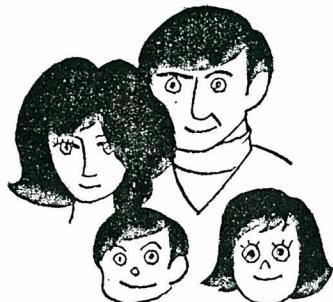
保育施設

区分	定員	園児数		
		男	女	計
第1保育園	180	79	101	180
第2保育園	120	57	39	96
上米田保育園	60	28	32	60

昭和51年10月1日現在



結婚 2日に1組



家族 一世帯に4.1人

絵で見る

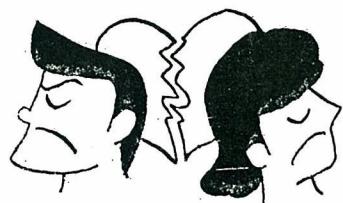
町民生活



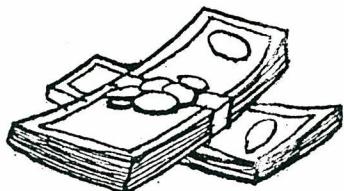
死亡 4日に1人



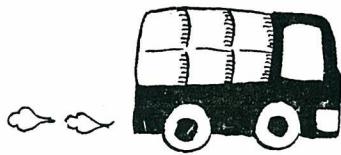
出生 3日に1人



離婚 25日に1組



町予算 1人当たり154,778円



転出 1日に1.2人



転入 1日に1.1人



火事 46日に一件



交通事故 3日に一件



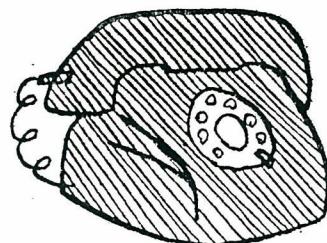
町民税 1人当たり20,265円



医師 917人に1人



自動車 3.3人に一台



電話 1世帯に1台



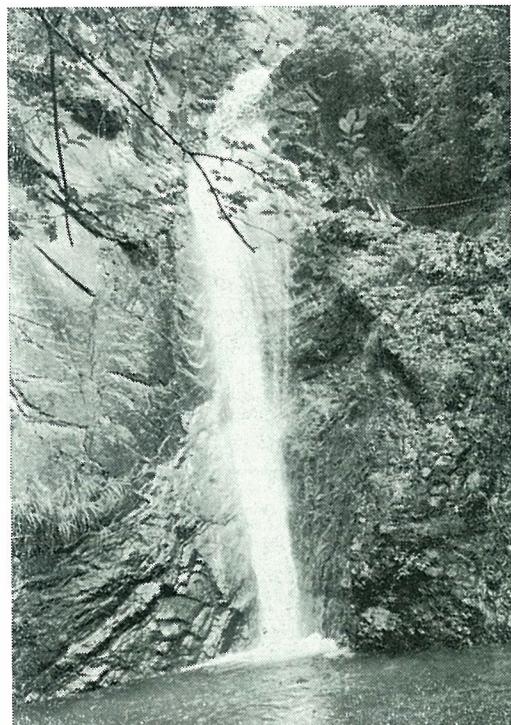
►愛宕山◀

川辺町を代表する山で、その形が富士山に似ているところから、私たちは通称「米田富士」と呼んでいる。山川橋の正面にその雄姿を見せ、川辺の町並を静かに見降ろしている。標高 293mの山頂には、往時録高 3,000石を領していた肥田玄蕃允義直の居城跡がありこの山の雄大な景観は、まさに政治の源であったかと思われる。

まちのみどりる

►木の根橋◀

柄井神社前を流れる能田川にかかるつており、境内にある大杉の根が伸びて、ちょうど橋のようになっているため、この名がある。往時は飛騨街道の通路となっており、人馬の通行にあてられていた。友左坊の句に「蔓ならで 土をからむや 木の根橋」とある。



►南天の滝◀

直下20余mの岩壁を伝って落下する一条の白糸「南天の滝」は、景行天皇御巡幸の際、ここで御休憩され、滝つぼの清水をお飲みになったところから、別名「天子の滝」とも伝えられている。春、夏、秋の憩いの場に最適の所である



合併20周年 記念行事

行 事	行 事 の 内 容	実 施 日 時	会 場
記念式典	町内外の来賓、関係者が出席功労者の表彰、町の花の発表など	12月12日 午前10時	川辺小学校 講堂
通水式	関係者、土地協力者を招き挙行	同 上 午前9時30分	山楠配水池
祝賀飛行	中日新聞社ヘリコプターより祝賀メッセージ投下	同 上 午前9時40分	山楠配水池 ～中川辺
鼓笛隊パレード	川辺小学校児童による中川辺市街地のプラスバンド行進	同 上 午前10時	中 川 辺
フォークコンサート	町内音楽愛好者によるコンサート 美濃加茂のバンドも友情出演	12月11日 午後6時	中央公民館
文化祭	書道、絵画、写真、生花、手芸、木工など展示	12月11、12日 午前9時	中部中学校 体 育 館
盆栽展示会	さつきなど各種盆栽を展示	同 上 午前9時	商工会館
茶の湯	明治学級による茶の接待	12月12日 午前11時30分	中央公民館
不用品交換会	婦人会主催による不用品の交換会	同 上 午前11時	同 上
芸能大会	筝曲、詩吟、舞踊、民謡、コーラスなど	同 上 午前11時30分	同 上

協賛行事

行 事	行 事 の 内 容	実 施 日 時	会 場
商工まつり	商業会による記念大売出し	12月1日より	
農機具展示会	川辺町農協主催による展示会	12月11日午後より 12日まで	川辺町農協 広場
宝さがし	商工会協賛、景品多数	12月12日 午前9時30分	山楠地内
もちまき	商工会ほか関係者協賛	同 上 正 午	川辺小学校 校 庭